俳優兼脚本家　三谷昌登さん

長崎歴史文化博物館　映像作品出演インタビュー！

リニューアルされた長崎歴史文化博物館の 3 面スクリーン映像、林道栄の声優は俳優兼脚本家の三谷昌登さんです！

この度、長崎歴史文化博物館の３面スクリーンのリニューアルを実施しました。今回の映像には、長崎県ゆかりの偉人が５名登場します！
林道栄の声優は俳優兼脚本家の三谷昌登さんが担当してくださり、インタビューにも応じてくださいました。

〇三谷昌登さん公式 WEB サイト
https://quartertone.jp/mitani/

〇リニューアル映像出演者
唐通事　林道栄（CV：三谷昌登さん）
オランダ商館医　シーボルト
（CV：森田成一さん）
長崎奉行　牧義制（ＣＶ：佐々木望さん）
写真家　上野彦馬（ＣＶ：山崎たくみさん）
プティジャン神父（ＣＶ：村雨辰剛さん）

三谷さんは、出演・脚本両方で、数々の大河ドラマに携わってこられています。長崎県の五島市も舞台になった朝ドラ「舞いあがれ」にもご出演されています。長崎歴史文化博物館は、他に類を見ない「近世長崎の海外交流史」をテーマとした博物館です。長崎県（歴史文化観光等）について、どういった印象をお持ちでしょうか。

私、実は、まだ一度も長崎に足を踏み入れたことがありません。
ちなみに「舞い上がれ」では、東大阪の金網工場のおじさん役だったので、長崎の暮らしにも触れられておりません。でも！「わげもん」という時代劇ドラマでは、長崎出島の乙名という役どころで、長崎弁で怒鳴っておりました。「てれんぱれんすんな！打ち殺すぞ、うな！」と。

他に、長崎の印象を思いつくままに上げますと、まずは「坂道」です。これは小学校の時の先生が「長崎は坂道の多い町です。では、上り坂と下り坂、どちらが多いでしょう？」という、意地悪な問題を出してきまして。僕は元気よく「上り坂」に手を挙げて、一票を投じていた苦い記憶があるからです。次に「カステラ」ですね。問答無用にうまいし、高級お菓子界の帝王です。後は「出島」。歴史的なことはもちろんなんですが、「マジで出島、マジ出島」みたいな歌がどこかで流行って、なんや妙に耳に残っております。他にも「グラバー」「島原の乱」「眠狂四郎」「ランタン祭り」「眼鏡橋」「勝海舟」「長崎奉行」「三大女傑」「ハウステンボス」「長崎ちゃんぽん」「原爆」・・・などなどでしょうか。やはり僕が思い描く長崎も、鎖国下の時代ですら、異国との交流が唯一認められていた町ですから、古き異国文化が至るところに残る、魅惑的な町です。この機会に必ず、初めてお邪魔したいと考えております。本当に見なくてはならないところ、ものがいっぱいですね。

今回、世界に開かれた長崎、国際貿易都市における多様性の象徴として、「唐通事　林道栄」役で出演いただきました。ここが見どころだなあと感じられることはありますか。

林道栄という人物のことはですね、まさに通事であることと、名前しか知らなかったというのが正直なところです。この度、そのお役目を頂戴し、慌てて調べると、なんと唐通事で、しかも父親が福建省出身の異国の方。「もしかしたら、これは台詞に中国語があるのでは・・・」と恐れていましたら、ほんのわずかですが、ありましたよ。中国語が。というわけで、それを、ジャッキー映画でしか、まともに聴いてこなかった僕が、どこまで話せているのか・・・そこが「見どころ、聴きどころ」でしょうか。しかも、ジャッキーは広東語ですしね。

三谷さんは、歴史がお好きと伺っています。三谷さんが、興味がある、演じてみたい、脚本を書いてみたいと思われる長崎県ゆかりの人物や歴史はございますか。

演じてみたい、書いてみたい人物！いっぱいいっぱいいらっしゃいます！坂本龍馬、勝海舟、平賀源内、石谷清昌、松本良順、天草四郎などなど。でも、今年４７を迎える三谷が、天草四郎を演じることはできないですし、坂本龍馬も日本中の坂本龍馬ファンから叱られますし。
スコセッシ監督の映画、遠藤周作先生の「沈黙」は、一度観てから、眼に焼き付いてます。イッセー尾形氏の怪演は、日本の誇りですね。「島原の乱」も含めた、

ああいう題材は、今一度きっちりと調べ、学び、書きたいとも思います。特に武将側ではなく、民衆側からの視点で。
後は、戦国時代でいうと、「対馬」は舞台として面白いのではないか・・・と思います。秀吉の朝鮮出兵の最前線であったり、そこに神々の神社があったり。ずっと宗家が代々大名を勤めているのも、独立国家の臭いがします。笑。「カステラ」や「長崎ちゃんぽん」が初めて日本に渡来した時の物語や、「卓袱料理」のなり立ちと、その数種の料理ごとに、何か物語を創作して、それが最後に一つのテーブルに並べられていくみたいなドラマも、おいしそう、いや、面白そうですね。

今回の博物館の映像作品も一つの契機ですが、長崎県特有の歴史文化に裏打ちされた魅力を全国の皆さんに楽しんでもらえるように、県・れきぶんともに頑張って長崎県の魅力を発信していきたいと思います。今回、三谷さんをはじめ、著名な方々に声優を担当いただけました。皆様を代表して、長崎歴史文化博物館の来館者の皆様にメッセージをお願いします。

僕は京都生まれ、京都育ちで、まさに「歴史の都」などとよく言われますが、長崎にも、日本が誇るべき、「長崎独特の歴史」が、思い切り受け継がれ、語り継がれ、息づいていると思います。古代から異国との交易の安全を願った神社もあれば、何よりも江戸の「鎖国時代」と言われる中で、唯一、世界にその入口を開いていた町なのですから。おそらく、その時代、異国から日本に来た人たちは誰もが皆、まず長崎の港について、長崎の空気を吸い、長崎の人と触れ合い、そして長崎の町から、故郷に帰って行ったのでしょう。そして、異国の文化をどこよりも早く受け入れ、独特の町になっていったんでしょう。日本と言えば、「サムライ、スシ、ゲイシャ」かもしれませんが、それよりもきっと「ナガサキ」という言葉を口にした異国人の方が遥かに多いと思います。
　「ニホンハ　ナガサキカラ　ハジマル」
そんな風に世界で噂されていたと思うと、なんだか、にやけてしまいますね。まだ、長崎を知らない僕は、何も始まっていないのですね。

長崎歴史文化博物館の情報はこちら
http://www.nmhc.jp/

このページの制作担当
長崎県文化振興・世界遺産課　文化企画班
電話番号：095-895-2768
〒850-8570　長崎市尾上町３番１号